令和７年度第１回弘前市立郷土文学館運営委員会　会議録【要旨】

日時	令和７年６月３日（火）１５時００分～１６時００分		
場所	弘前図書館２階　会議室	傍聴者	０人
出席者	委員長　藤田　晴央 副委員長　井上　諭一 委　員　浅瀬石　久仁子 委　員　宮崎　新 委　員　桶田　久美子 委　員　鈴木　渓心 委　員　今谷　弘		
欠席者	委　員　帆苅　基生		
事務局側 出席者	郷土文学館館長　小田桐　康眞 郷土文学館企画研究専門員　櫛引　洋一 弘前市教育委員会生涯学習課長　中川　元伸 弘前市教育委員会生涯学習課長補佐　山内　浩弥 弘前市教育委員会生涯学習課主幹　村上　光人 弘前市教育委員会生涯学習課総括主査　坂﨑　春子 図書館・郷土文学館運営推進室長　髙橋　貢		
会議の議題	(1) 令和６年度弘前市立郷土文学館事業実績について（報告） (2) 令和７年度弘前市立郷土文学館事業について (3) 今後の事業等について		
会議の結果	「会議の議題」に基づき説明し、委員からの質問や意見を伺った。		
会議資料	・資料１　令和６年度　事業実績 ・資料２　令和６年度　観覧者数・観覧料 ・資料３　令和６年度　刊行物販売数 ・資料４　令和６年度　資料収集状況 ・資料５　令和７年度　事業内容		

会議内容（要旨）	
議事（１）令和６年度弘前市立郷土文学館事業実績について（報告）	
事 務 局	（資料１～資料４に基づき説明）
委　　員	購入資料に葛西善蔵全集とありますが、今までなかったのですか。
事 務 局	葛西善蔵全集についてはワンセットしかなく、展示していると調べることができないので購入したものです。
委　　員	北の山脈文学講座が５月から 12 月まで毎月開催され、１月に自主事業として開催されています。郷土文学館は通年開館しているのだから、１月から３月も開催し、ひと月に１回としたらいいのではないかと思いました。
事 務 局	文学講座は８回以上開催するという決まりがあります。年度当初に市や他の団体に、５月から 12 月までの講座をタイトルや講師名を入れて提出しており、１月以降のものは例年行われていないので出していません。自主事業は、当初の予定に入っていない中で新たにやるということなので、申請するかたちでやっています。
委　　員	開催自体は問題ないということですね。
事 務 局	今までは２回、１月にやりましたが、今回も温泉をテーマにということで、当初の予定にはありませんが、展示や文学講座の趣旨にも合っています。変なものを出さない限り通ると思います。
委　　員	通年開館ですので、１月から３月も文学講座があればいいと思います。
事 務 局	今年度も可能性はありますが、講師やタイトルが決まっていません。前年度の段階で、あるかもしれないと口頭ではお話ししていますが、詳細が決まっていないので出していません。

議事（２）令和７年度弘前市立郷土文学館事業について 議事（３）今後の事業等について	
事 務 局	（資料５に基づき説明）
委　　員	石坂洋次郎ミニ企画で、石坂洋次郎の映画とあります。当節的に寺山修司の映画というのも考えられますが、計画や腹案があればお伺いしたいのですが。
事 務 局	石坂洋次郎記念室は石坂洋次郎についてのものという縛りのなかでやっています。もし寺山修司と映画ということになりますと、ロビー展や11月３日の無料映画上映会といったところになると思います。
委　　員	寺山は短歌、演劇、映画、舞台でも有名なので、映画の情報もあるといいと思います。
事 務 局	意見を参考に検討したいと思います。
委　　員	２階は石坂洋次郎のコーナーとしての縛りがあるという考え方を改めたらいいのではないかと思います。石坂洋次郎の展示を始めてだいぶ長くなり、同じようなポスターが貼られています。ベースの展示としては構わないのですが、企画展とリンクできるのであれば、２階の会場をその期間だけ、今回であれば寺山の映画のポスターや資料を展示するというやり方にしていくと、１階と２階がもっと有効活用されるのではないかと思います。
委　　員	文学館は本来、石坂の記念館にしようとしたのではないでしょうか。
事 務 局	当時の資料を見ますと、もともと郷土文学館設立の予定はなく、市立図書館を新しくするので、その一隅に郷土文学コーナーをと、ほぼ話が決まっていましたが、文学関係者を中心に、文学都市の弘前で、そんな片隅でいいのかということで覆ったものです。それで図書館の併設ではあ

事 務 局	りますが、今のようなかたちで図書館と文学館が分かれています。その後押しをしたのが石坂洋次郎の遺族から寄贈された大量の資料となっています。文学館というのは、石坂洋次郎や常設の作家も、そういう記念室をつくる、常設をつくるということを前提としてご遺族から資料も寄贈され、展示しており、簡単に変えるといけない部分がありますので、ご遺族とのバランスをとりながら、今後流れにしたがって、いろいろ検討していくということです。常設についても、なぜ寺山修司や長部日出雄を入れないのか等、いろいろなお話はあります。毎年１回、ご遺族から借用している資料を更新するなどしていますので、文学館の事情とご遺族の事情とのバランス取りながら、いいかたちで今まで進んできている状況です。信頼関係で成り立っていますので丁寧にやっていかないと、と思っています。
委　　員	例えば、寺山修司の若い頃の手紙に石坂洋次郎の本を読んだとか、そういう記述もありますので、寺山修司が読んだと思われる時代の本、石坂洋次郎との接点という感じで、石坂洋次郎と他の作家を結ぶような展示があっても面白いと思います。石坂洋次郎は、寺山の青春期、県内の学生たちにかなり大きな影響を与えていたのではないかと思います。今回の展示は短歌から始まりましたが、今後、他の作家の影響や交流などが研究されていくきっかけになり、いずれ寺山の映画なども上映できたらいいなと思います。
委　　員	石坂洋次郎の常設展示が必要というのはわかりますが、展示スペースが限られていますので、寺山修司のような多ジャンルで才能を発揮された方を多面的に見せる空間というのも必要です。例えば、図書館の視聴覚室や市の他のスペース、特に追手門広場で上映会とか、柔軟にやれる方法はないものでしょうか。
事 務 局	例えば記念講演会は、図書館の視聴覚室、観光館、今年はホテルと、外でやるということは今までもやっています。映画の上映会も図書館の視聴覚室でやっており、外で実施する事業も文学館の事業として理解を得ながらやってきています。
委　　員	アクセスがあまり遠くないところで、いろいろと見られるようになるよ

委　　員	う行っていければと思います。
委　　員	追手門広場の活用の仕方で、寺山修司のアングラが好きな人は一定数いると思うと、外で寺山修司を好きな人が集まることが弘前にもあっていいと思います。そうなると音楽に関係してくる人や派生したファンの人たちが集まってくれるきっかけになると思います。その中で今回であれば短歌は文学館で見せ、観光館で映画を見るとか、追手門広場の屋外スペースのようなところでやれば、肩肘張らずに、難しくないんだというイメージになると思います。
委　　員	市でやるのもいいと思いますが、寺山のいろいろなことをやりたい、という学生さんたち主導でやってみるのが面白いのではないかと。福島泰樹さんも早稲田大学時代に、寺山修司に短歌の才能を見出してもらったということで、学生と太宰、寺山の相性が良いことと、寺山修司の奥さんが初めて弘前で講演したときの会場が弘前学院大学の地域学の会場だった、ということで、ご縁もあると思います。弘前は学生の街なので、働きかけていくと、やがて市も柔軟に対応してくれるようになると思いますので、期待しています。
委　　員	３年生以下の、まだ時間がある方に話を振ってみます。
委　　員	昔、映画研究会が、大学祭のときに映画を大学校舎の壁に上映したことがあります。学生には好評でしたが、事前に知っていたご近所の人以外の、たまたま車で通った人などは、何百インチかの映像が壁に映っているのでギョッとしてしまい、随分問い合わせがあったということで、外でやるというのは難しい、と考えたことはあります。時代が違うので、今だったら違うやり方もできるかなと思います。いい話を伺ったので大学に持ち帰ります。
委　　員	前橋文学館では、萩原朔太郎についての冊子がコンスタントに出され続けています。弘前市立郷土文学館からもコンスタントにそのような冊子が出てもいいのではないかと思います。図録はその年のテーマだけで終わってしまいますので、寺山修司や太宰についての小論文やエッセイを、大学生、高校生とか混じったかたちで発表できるような冊子が郷土文学

委　　員	館で発行されるといい財産になると思います。また森鴎外記念館には、広くはありませんが、一箇所、ビデオを見せる部屋があります。六畳間ぐらいを確保し、壁面全部で映像をあづましく見ることができます。毎年の企画展に沿った、力の入った映像が作られていますので、あづましく見られる空間がこの先できたらいいと思います。
委　　員	埼玉の文学館で、過去の映像をいっぺんに見られるブースがあります。毎年すごくすてきな映像がつくられていますので、どこかのスペースでいくつか過去作も見られたら面白いと思います。
事 務 局	現状、全国でも類を見ない方言詩のコーナーがあります。地元の子供も来て、津軽弁でこんな詩をつくっていると笑いながら見たりもしています。ただ、モニターなども古く、限られた空間のため、あづましいというところまでにはなっていないと思いますが、可能性はあると思います。
委　　員	あづましい空間ができましたら、高木恭造を中心とした方言詩の上映とその年の企画展のビデオの上映を交互にやればいいと思います。